

歴史的な事件などの説明

本書で述べられる歴史的な事件などを、以下に五十音順で簡単に説明する。

○**アヘン戦争** 1840年から約2年間にわたり、清朝と英国で行われた戦争。清朝が敗北し、1842年の南京条約により香港の割譲や鎖国政策の廃止が決まった。

○**院系調整** 新中国建国後の1952年に、ソ連の高等教育システムを範として行われた大学の学部や学科の再編。建国直後の膨大な技術者需要に対応するため、工学部などに特化した単科大学などが作られた。

○**義和団事件** 1900年に発生した反キリスト教、排外主義の民衆蜂起。清朝は当初鎮圧を図ったが、北京が占領されるに及んで蜂起を支持し、義和団鎮圧に動いた欧米列強に対して宣戦布告した。しかし英米仏露日など8か国連合軍が北京を奪取し、敗れた清朝は北京議定書を締結して膨大な賠償金を支払うこととなった。

○**庚款留学生制度** 米国からの賠償金返還を受け、清朝が設置した留学生制度。1900年の義和団事件の敗北後に結ばれた北京議定書で、清朝は当時の国家予算の数倍にあたる賠償金の支払いを外国列強に約束した。この賠償金の支払いが清朝の人民を苦しめることになったため、米国は賠償金の一部返還を決定し、条件として返還される賠償金を中国人学生の米国への留学費用に充てることを求めた。同時に留学生の予備校として清華学堂が設置され、これが現在の清華大学の母体である。

○**国家最高科学技術賞** 中国の科学者に贈られる最高級の科学技術賞。各年度最大限2名まで授与されるが、受賞者なしや1名の場合もある。日本の科学技術関係の文化勲章に相当する。

○**国共内戦** 日中戦争に勝利した後の中国において、1946年6月から1949年末まで続いた中国共産党（人民解放軍）と中国国民党（国民革命軍）の内戦。最終的に中国共産党が勝利し、1949年10月に中華人民共和国が建国された。

○**国立西南連合大学** 1937年7月に勃発した日中戦争により日本軍が華北に進攻したため、1938年に北京大学、清華大学、南開大学（天津）の3大学合同で雲南省昆明に設置した大学。

○**五・四運動** 1919年5月4日、北京の学生らが日本の中国侵略に抗議して行ったデモ

に端を発した中国人民の愛国運動。

○**辛亥革命** 1911年10月に孫文の影響を受けた革命軍が武昌を武力制圧し、その後各地で相次いだ革命軍の蜂起を受けて1912年2月に清朝最後の皇帝溥儀が退位した事件。

○**太平天国の乱** 1851年に発生した洪秀全を天王としキリスト教の信仰を紐帯とした反乱。反乱軍は1853年3月に南京を陥落させて天京と改名し、太平天国の王朝を立てた。清朝はその後も鎮圧を試みるが成功せず、清朝と太平天国が共存する状況が10年以上続き、1864年に洪秀全が亡くなった後天京が陥落して漸く乱は平定された。

○**大躍進政策** 毛沢東の指導の下で、1958年5月から1961年1月まで実施された農業と工業の大増産政策。現実を無視した増産手法などにより国内で大飢饉が発生し、数千万人に上る人民が死亡したと言われている。

○**中央研究院** 1928年に中華民国政府により近代的な科学技術や学術研究を行うため設置された研究機関。傘下に物理、化学、工学、地質、天文、気象、動物、植物など14研究所を南京や上海などに設置し、初代院長には蔡元培が就任した。新中国建国後に接收され、中国科学院の母体の一つとなった。一方、台湾に逃れた元研究者らは、1954年に台北市に中央研究院を再建している。

○**日中戦争** 1937年7月の盧溝橋事件に始まり、1945年8月に日本の降伏で終わった、日本と中国との全面戦争。当初は日本軍が優勢で、上海、南京、武漢などを占領したが、中華民国は首都を重慶に移して徹底抗戦した。1941年12月に真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まると戦線が膠着し、1945年8月に日本軍の敗戦により終了した。

○**反右派闘争** 1957年6月から年末に行われた右派分子に対する政治闘争。1956年から1957年初頭にかけて「百花齊放百家争鳴」の運動が展開されたが、その中で中国共産党批判が激化したため、これに反撃する形で数十万人の知識人への迫害が進められた。

○**文化大革命(文革)** 1966年から1976年まで、毛沢東の主導下で発生した政治的・社会的動乱。多くの知識人が迫害された。

○**北平研究院** 1929年に中華民国政府により北京(北平)を中心に設置された研究機関。物理、化学、ラジウム(後に原子学と改名)、薬物、生理、動物、植物、地質、歴史などの研究所を傘下に設けた。新中国建国後に接收され、中央研究院と同様に中国科学院の母体の一つとなった。

○**柳条湖事件** 1931年9月18日、中国東北部に駐屯していた日本軍が、奉天（現瀋陽）郊外の柳条湖で南満州鉄道の一部を爆破した事件。日本軍は爆破を「中国軍の犯行」とし、中国東北部・満州を軍事占領し、これが翌1932年に傀儡政権である満州国の建国につながった。中国では「九・一八事変」と呼ばれる。

○**盧溝橋事件** 1937年7月7日、北京郊外の盧溝橋で夜間演習をしていた日本軍が、実弾の射撃音を聞いたとして近くの中国軍と戦闘になった事件。日本政府は当初不拡大の方針を唱えたが、陸軍の強硬派に引きずられ日中全面戦争の発端となった。中国では「七七事変」と呼ばれる。